
神裂『……すみません、上条当麻。』上条『なんでせう？』

T・E

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

神裂『……すみません、上条当麻。』上条『なんでせう？』

【Nコード】

N3356R

【作者名】

T・E

【あらすじ】

神裂、五和、御坂がヤンデレ化する予定です。

初春×一方がまだ終わってないのに新しいのを書きたくなくなっていました。

すみません。

ブローグ

いつからだろう。

上条当麻は私の恩人だったはず。
それ以上でもそれ以下でもなかったはず。

本当にいつからだろう。

彼を想うとこんなに胸が締め付けられるようになったのは。

五和の行動を見てからだろうか。
明らかな好意を彼に向けているのを見て、私もあてられてしまったのか。

土御門がからかってきたときだろうか。
上条当麻の好みに近付ける気がしたせいだろうか。

たまに彼の鈍感さに嬉しくなる時がある。
それは五和の積極的なアピールにまったく気が付かない時などに強

く感じる。

私を見てくれないが他の人を見ているわけではない、ということに安心する。

誰の物にもなっていない上条当麻。

私だけの物にしたい。
私だけを見てほしい。

1（前書き）

随分長い間沈黙してしまつてすみませんでした。

大学生になるって色々大変なんですね……。

ただ、これからはP C 投稿に変えますので結構ペースあげれると思います！！

ちなみにこの作品の時系列ですが大三次大戦後ということでお願いします。

8月の学園都市は暑い。

ヒートアイランド現象とでも言うのだろうか。

夏休みに入っているようで沢山の学生達が通りを闊歩している。

学園都市には案外簡単に行けた。

口実はいくらでも作れるから。

ただ問題はここからだ。

禁書目録。

上条当麻の家に居候している私の友人。

どうしても彼女が障害になる。

彼女がいると上条当麻を独り占めできない。

さて、どうしようか。

『ようねーちゃん!』

聞き覚えのある声が背後から聞こえた。

土御門元春。

必要悪の協会の抜け目ない男がそこにいた。

『急に学園都市に来るってのはどういう風の吹き回しなのかにやー？カミヤんにまた恩返しでもするつもりなのかにやー？』

『……ええ。いつかは失敗しちゃいましたからね。今回は料理でもしたりして恩返しするつもりですよ。』

料理、選択、買い物、必要な夜の世話だって……。

彼の望みは全て私が叶えたい。

私だけが彼の願いを叶えられる存在になりたい。

そうなるためにここまで来たのだから。

『どうしました、土御門？何故固まっているのですか？』

『い、いやあ、いつもの返しを期待していたのに肩透かしを食らっちゃまって……ショックで口調まで変になっちゃったぜい。』

『そうですか。まあ、そういうことです。』

私は上条当麻の家へ向かおうと土御門に背を向けた。
そして一歩踏み出そうとしたところに、

『ああ、待て待て！そういうことなら手伝ってやるぜい！（こんな面白そうなことをみすみす見逃すハズがないにゃー！！）』

土御門は、良からぬことを考えていることが一目でわかる醜惡な表情を浮かべていた。

『しかし、ねーちゃんがカミヤんに夜することを考えると、禁書目録がちよいと邪魔になるんじゃないかにゃー？』

『……』

『わ、わかったから怒るなってねーちゃん！無言で七天七刀は洒落にならないんだにゃー！』

もちろん、もし彼がそれを望めば私は喜んで身を捧げるつもりだ。
ただ何らかの反応を示さないと土御門が疑うだろうから、普段通りの反応を試してみた。

しかし、これは願ってもない展開かもしれない。
実際、禁書目録は障害になる。

先程懸念した通りだ。

ここは彼に任せてもいいかもしれない。
そっちの方がスムーズに行く気がする。

『まあ、貴方が考えているようなことはしませんが、禁書目録がい
ると何か気まずいですね。彼女をどうすればよいでしょうか。』

『簡単だにゃー。旅行にでも行かせればいい。』

『……ふざけているのですね?』

『待て待て！話は最後まで聞くのがルールってもんだぜい！禁書目
録の友達に姫神ってヤツがいるんだが、姫神に女性2人限定旅行券
を渡せば問題は解決ってことですたい。』

『そんなに上手く行くものでしょうか。私には失敗の光景が目に見え
かびますが……。』

『そこはこの俺の手腕の見せ所ってやつですたい！まあ、任せるか
任せないかはねーちゃん次第だがにゃー。』

結局私は彼の提案を受け入れた。
彼なら多分上手くやるはずだ。

彼と別れ、一先ず宿を探す。

土御門からの連絡が来るまではそこに居座ろう。

色々考える必要があるし、丁度いい具合に時間を潰せるだろう。
まだ時間は沢山ある。

……もう少しだけ待っててくださいね？上条当麻。

二日が過ぎた頃、ホテルに土御門から連絡がきた。

『首尾は上場！！作戦成功だにやー！！』

『そうですか。ありがとうございます。』

『禁書目録は姫神と一緒に4日間旅行に出るぜい。4日もあれば十分だろ？ねーちん。』

4日。

決して長いわけではないが、短くもない時間。

……十分だろう。

『本当にありがとうございました、土御門。感謝しきれません。』

『なぐに言っただよねーちん！俺たちは仲間なんだし当然ですた
い……』

『……下心があるでしょう？土御門。』

土御門が上条当麻の隣りに住んでいることは当然知っている。
その対策にもなかなか頭が痛かった。
だからこそ、この2日間は本当にありがたかった。

『な、何を言っているのかさっぱりですたい!』

『バレバレですよ、土御門……。とは言え、貴方の今回の功績を考えると、あまり無下に扱うことはできませんね……。』

返答を考えるふりをする。
普段通りの私を装うために。

『そ、そうだぜいねーちん!まさか追い出すような真似はしないって信じてるニヤー
!!!』

『はい、さすがにそんなことはできませんし……。』

『大丈夫だぜい、ねーちん!俺は絶対聞き耳たてたり覗き見たりしないから!!!』

『と言ってる時点で信用できませんし……。』

『そんなぁ!それはあんまりに酷いんだにゃー……。』

そろそろいいか。

『そう言えば、貴方が禁書目録に与えたチケットというのは、もしかして3日後出発のチケットですか？』

『ん？そうだにゃー。だけど、何でねーちゃんが知っているのか疑問だぜい。』

『昨日買い物に行った商店街で福引をしていたのを偶然見たんですよ。景品に女性ペア旅行券ってあったので、もしかしたらと思いまして。』

土御門元春は騙すスペシャリストだ。

姫神とかいう女の子に与えた旅行券が出所不明な物のわけがないと踏んで正解だった。

慣れないパソコンで近辺のスーパーや商店街を必死に調べた甲斐はあった。

実際に足を運んで自分の目で確認した時は、嬉しくて小躍りしてしまいそうだった。

『そんな偶然もあるもんなんだにゃー。』

『ええ、少し驚きました。そこで一つ提案があるのですが……。』

『提案？』

『その日付に合わせて貴方も旅行に行くのはどうでしょうか？』

『何を言うかと思えば……。悪い』

『舞夏さん。』

土御門の言葉が止まる。

『……舞夏だと？』

『ええ、舞夏さんです。彼女が今研修に行ってる旅館……随分と高いですね？』

『……！』

もう一つの成果。

土御門に対しての最終兵器と言っても過言ではないワードを出す。

『貴方がどんなに行きたくても、さすがに簡単には手が出せませんよね？』

『……卑怯だぞ!』

『今なら私が工面してあげますよ?』

『くっ……。1日、1日時間をくれ!』

『いいですよ。ただし、今回の件は私とあなたしか知らない話です。……何が言いたいかはわかりますよね?』

『……了解だにゃー(建宮に連絡を取れないってわけか……。しかし、今回のねーちゃん隙がないにゃー。)』

土御門からの電話が切れた。

1日の時間の猶予を欲したのは何か細工を施すためだろう。

まあ、それは何とかなる。

聖人の力使えば、全てのトラップを看破できるはずだ。

建宮あたりとの連絡はあの一言で取れなくなっただろう。

抜かりはないはず。

彼が、上條当麻が待ち遠しい、愛しい、恋しい。

とても近くににいるのにまだ会えないなんて……。

でも準備は整った。

後は待つだけ。

やけに遅く感じる時間が過ぎるのを待つだけ。

もう少し辛抱しましょう……。。

もうすぐ彼に会える。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、^{たんのう}堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3356r/>

神裂『……すみません、上条当麻。』上条『なんでせう？』

2011年4月9日21時56分発行